

令和6年度 卒業証書・修了証書授与式

告辞

今年の冬は例年に比べて雪が多かったですが、最近では肌を刺すような冷たい外気も和らぎ、吹く風も春の訪れを感じるようになりました。今日、晴れて卒業式・修了式を迎えられる皆さん、まことにおめでとうございます。教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の皆さまも、さぞお喜びのことと思います。卒業生の皆さんに代わり、心から感謝しお祝いを申し上げたいと思います。

本日、本科卒業生201名、専攻科修了生28名が本校を巣立っていくことになりました。皆さんは、中学校卒業後、多くの同級生とは異なり、高等教育機関である本校に入学し、実践的かつ創造的な技術者への道を選びました。1年生からの専門教育、多くの実験・実習やインターンシップ、そして力試しの場でもある様々なコンテスト等は、新鮮な体験であるとともに、初めのうちは苦勞し、戸惑いもあったかもしれません。今日ここに卒業・修了を迎えられたということは、5年間、7年間で皆さんが大きく、そして逞しく成長したと認められたことを意味します。

卒業生の中には、チュニジアからの留学生のモハメッドさん、マレーシアからの留学生のヨンシンさん、カンボジアからの留学生のリュクサさんがおります。故郷を離れ、異文化の中で言葉や環境の違いを乗り越え、勉強に励み、学業を全うされたことに心から賛辞を送ります。

振り返ってみると、本日卒業式を迎える皆さんの大半が入学された2020年4月は、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい始め、全国的に緊急事態宣言が発出された時期でした。入学式は新入生と教職員のみで行われ、本来なら同級生と共に教室で行われるはずの授業はオンライン配信に変更され、楽しみにしていた課外活動も休止となり、大半の時間を自宅などで籠って過ごすことを余儀なくされました。入学早々、全く先の見えない状況に、さぞかし孤独で不安な思いをされたことも多かったと思います。修了生の皆さんにとっては、3年間の集大成として臨むはずであった高校総体やコンテストなどが中止や遠隔開催となるなど、悔しい思いをされたことでしょう。

また、昨年1月には能登半島地震が発生し、やっと平常に戻った学生生活の最後の1年間が影響を受けるのではと心配された方も多いのではないのでしょうか。私が皆さんと共に過ごしたのは1年足らずでしたが、地震による不便さや困難を傍らに置きつつ、目の前のことに真剣に取り組む皆さんの姿に感銘を受けました。1日目の悪天候にも動じることなく、最後までやり遂げた紀友祭のフィナーレの花火は、私にとっても何ものにも代えがたい思い出となっています。専攻科に進んだ皆さんが築き上げた伝統が、本科の学生に受け継がれていると感じています。

さて、皆さんは4月から新しい就職先や進学先へと進んでいきます。社会の変化は目まぐるしく、将来の見通しを立てるのはますます難しくなっています。科学技術の進歩のスピードも速く、AIやドローンは皆さんにとって身近な存在となっていますし、空飛ぶクルマや月面での生活など、空想の世界でしかなかったものが実現に向けて具体的に動き出しています。しかし、心配しすぎる必要はありません。皆さんが本校で学んだ基本的なものづくり技術や専門性、そして基礎的な教養は、急速に変化する社会において最大の武器となるでしょう。

また、国際的な視野を広げることも重要です。私は以前、高専生に読んでほしいこの一冊として「深夜特急」を挙げました。作家の沢木耕太郎が若い時に香港からロンドンまで旅した時の記録で、私が世界に目を向ける一助となったものです。建築家の安藤忠雄氏は先日の新聞のインタビューで「島国日本に住む人間の一番の弱みは国際感覚の欠如です。」とおっしゃっています。安藤氏は、独学で建築を学び、今や世界的な建築家となった方ですが、若い頃に世界中の建築を見て回り、「世界の大きさと深さを意識した。」と語っています。本日、卒業及び修了される皆さんは、新型コロナウイルスの影響で海外研修なども制限された学年ですが、ぜひ世界を自分の目で見る機会を作り、グローバルな視野を育ててほしいと思います。

最後に一つお願いがあります。これからの人生において、様々な困難に直面し、心が折れそうになることもあるでしょう。そんな時に自分を癒す手段をもってください。それは、家族や友人とのおしゃべりでもいいですし、スポーツや趣味に打ち込むこと、大好きな芸能人のライブに行くこと、とにかく何もしないことなど、どんな方法でも構いません。自分に合った癒しの手段をいくつか持っていることは、心の余裕や他者への共感にもつながると思います。

本校は今年で創立60周年を迎えます。本校を卒業した約9400名の先輩方は、国内外の様々な分野で活躍しています。私が若い時に仕事のイロハを教えてもらった先輩も本校の卒業生です。皆さんには、本校の卒業生であることに自信と誇りを持ち、本校で体験し学んだことを活かし、それぞれの夢を持ち続けて活躍することを期待しています。

本日はまことにおめでとうございます。

令和7年3月19日

石川工業高等専門学校長
富田 大志